

横浜市立万騎が原中学校 学校だより



桐の花

令和5年

11月24日

校長 綿貫 芳人

横浜市旭区万騎が原 31 TEL 045-391-5514 FAX 045-391-5537

URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/makigahara/index.cfm>

温かい言葉

校長 綿貫 芳人

先日、私は旭区内の中学校が合同で行う個別支援学級の宿泊学習に行ってきました。そこで出会った言葉に心がとても温かくなりました。夕食時、私の隣の生徒はだいぶ早く食べ終わっていて、時間をもて余しているように見えました。一方、目の前の生徒はまだまだ食べている最中でした。そんな中、ごちそうさまの時間が来てしまい、みんなで「ごちそうさま」をしました。すかさず、隣の生徒がまだ食べている生徒に「ゆっくり食べていいからね」と優しく伝えたのです。私は、相手を気遣う優しい言葉がどうしてこの場面で出たのかちょっと興味があったので、その生徒に「なんでそんな優しい言葉が出るの？」と聞いてみました。するとその生徒は、「妹がいるから」と言いました。詳しくはわかりませんが、普段の生活の場面の中で、よく使う、あるいはよく聞いている言葉だったようです。人は温かい、優しい言葉が身の回りがあると自然と身に付いていくのかもしれませんが。

ほんの小さな一言で心が救われることがあります。あるいは、何気ない相手の一言ですごく傷ついたりします。こういった相手から受け取る言葉や働きかけのことを心理学で「ストローク」というそうです。相手から受け取る言葉や行動のうち、あいさつ・褒める・感謝する・理解する・ねぎらう・拍手・握手などは「プラスのストローク」、責める・悪口・文句・ラインでの誹謗中傷・にらむなどは「マイナスのストローク」というそうです。当たり前ですが、「プラスのストローク」をもらえばうれしくなります。「自分はこれでいいんだ」という実感が持てることもあるでしょう。逆に「マイナスのストローク」をもらうことは、「自分はだめなんだ」という気持ちになってしまうでしょう。

私たちは様々な人々の中で生活していますが、お互いに楽しく気持ちよく過ごしていくためには、「プラスのストローク」が必要です。プラスはプラスの、マイナスにはマイナスの引力が働くので自分自身が「マイナスのストローク」を出さないように気を付けなくてははいけません。あいさつやありがとうという言葉も「プラスのストローク」の一つなのでそんなに難しいことはありませんね。自分のクラス、学校、家庭、職場などが「プラスのストローク」であふれているといいですね。普段、自分が相手にどのようなストロークを与えているか、考えてみる機会を設けることは大事ではないでしょうか。

私は、個別支援学級の宿泊学習に行き、はっと気が付かされた思いがしました。みなさんは、どうですか。今日の日の中で相手に与えたストロークは、「プラス」と「マイナス」のどちらが多かったのでしょうか。「良い言葉は良い心を育てる。悪い言葉は悪い心を育てる」という言葉もありますが、その通りだなあと思います。私も自戒を込めて・・・。